

議会報告会 会場報告書

担当班：1班 班代表者：木戸貞一

概要			
地区名：後川地区 日時：平成28年11月19日(土) 19:30~20:35 場所：後川文化センター 参加人数：15人(男15人・女0人)	【出席議員】 木戸貞一 隅田雅春 大上和則 國里修久 渡辺拓道 吉田知代	(1) 開会あいさつ：木戸貞一 (2) 議会報告：國里修久 (3) 質疑応答：下記参照 (4) 意見・提言等：下記参照 (5) 閉会あいさつ：木戸貞一	挨拶・総括：木戸貞一 司会進行：大上和則 報告：國里修久 受付・記録：隅田雅春 渡辺拓道 会場(マイク)：吉田知代

【主な質疑】

質疑・意見	回答
・イノベーションラボの施策について、神戸大学生による地域おこし協力隊との関係性はあるのか。また、イノベーションラボで学んだ方が、市内各地区で活躍できる仕掛けはあるのか。	・イノベーションラボは、若い人に起業に係る勉強をしていただき、市内で起業いただくといった施策です。地域おこし協力隊との直接的な関連性はありません。地区で活躍いただくための拠点整備や、起業相談の中で地区とのマッチングを図るなど、学ばれた方と地区を結び付ける取り組みも検討されています。
・昨今の篠山市清掃センターに係る問題は、どのような内容なのか。また、センター埋立地のごみ搬入許容量は、どの程度なのか。	・丹波市の申し出は、清掃センターに係る負担金割合の見直しです。丹波市は、負担率が高いと主張している一方で、篠山市としては平成39年まで安定的に運営していく必要があることから、負担金の見直しについては慎重にならざるを得ず、議論が平行線となっているのが現状です。現在、市は「篠山市清掃センター検討委員会」を立ち上げ、有識者や市民の意見を得ながら、対応していくこととしています。埋立地については、埋立地内の建屋を解体する等の対応をすることで、今後も10年程度の受け入れは可能であると見込んでいます。

質疑・意見	回答
<p>・後川地区においては、救急車や消防車などの緊急車両が必要な緊急事態になった場合、緊急車両の到着に20分程度の時間を要する。脳梗塞等により倒れた場合は、1分1秒で生死を分けることから、安心して生活できるまちづくりのために、消防の出張所を設置してほしい。</p>	<p>・篠山市内エリアを効率的にカバーできる消防体制を根本的に考えていかなければならないと考えます。一方で今の消防職員数では現行の出張所の安定的運用も困難な状況にあります。また、消防本署については、老朽化により建て替えの必要性が高まっていることから、本署の在り方も含めて、執行部に繋ぐとともに、今後議会で注視・議論していきたいと考えます。</p>
<p>・病院の受け入れ拒否などの事例も聞く中、救急医療体制については、更に充実していく必要があるのではないか。</p>	<p>・数年前には、そういった事例を耳にすることもありましたが、病院の受け入れ体制については、改善されてきていると感じており、平成27年度については、受け入れ拒否の事例はなかったと認識しています。救急医療体制の充実については、執行部に繋ぐとともに、消防本部を中心に篠山市医師会に対して働きかけている中、議会としても注視していきたいと考えます。</p>